

Q1. TEC-FORCE隊員として、どのような役割を担っていますか？



INTERVIEW

01

ひらの れい
平野 礼

九州地方整備局
九州技術事務所

私は、九州地方整備局の「ブルーホークス」と呼ばれるドローン部隊に配属されています。災害が発生したら、すぐに被災地に入り、ドローンを用いて上空から被災状況をいち早く撮影し、被災自治体や災害対策本部に情報を提供する役割を担っています。ドローンは、ヘリコプターより低い高度で飛ぶことができ、被災箇所により近い距離で情報収集できることが特徴です。

撮影した動画や静止画は、早期に復旧するための方針策定や、二次災害防止のための対策検討等に活用されます。

平成29年九州北部豪雨では、人が立ち入れない現場の被害状況をいち早く把握することで、地域の早期復旧に貢献できたと感じています。



ドローン発着ポイントに向かう隊員
(平成29年九州北部豪雨)

Q2. 日頃から心がけていることは何ですか？

私たち九州地方整備局では、被災地で安全にドローンを操縦し被災箇所を撮影するために資格取得制度を設けています。そして、国の機関では、はじめて航空局の承認を得ている技能講習団体として認定されています。私たちは、平成26年の発足以来、数千時間のフライトをしています。これまで無事故でフライトしているところを一番の誇りに思っています。



ドローンによる崩落した土砂の調査状況
(平成29年九州北部豪雨)

ドローンによる調査は、災害発生直後に行うため、どのような危険が現地にあるかわかりません。そのため、3人以上を一つのチームとして活動し、年齢・役職にかかわらず、フラットに意見交換できるようなチーム作りを心がけています。また、被災地では、限られた時間で、どこからどのように飛行し調査することが有効であるかをフライトプランとして組み立てる能力も求められます。安全に、かつ有効な撮影を被災地でできるよう、日ごろから実際の現場に見立てた場所で模擬訓練を行うなど、人材育成に力を入れています。

Q3. TEC-FORCEとは一言で何ですか？

「第一歩」です。

TEC-FORCE隊員は、被災地の状況把握、安全確保、進入・避難ルート確保、被災状況の調査などを行います。TEC-FORCEは、その後の復旧・復興に続く第一歩として、地域に貢献しています。

